

職	員	辭令式
横須賀地方復員局掃海部横須賀支部長	横須賀掃海支部長	
吳地方復員局掃海部吳支部長	吳掃海支部副長	
吳地方復員局掃海部下關支部長	下關掃海支部機雷長	
多支部軍醫長兼分隊長	博多掃海支部軍醫長兼分隊長	
大湊地方復員局掃海部大湊支部附	大湊掃海支部附	

二復人事局補第二八號ノ二
昭和二十年十二月十四日

第二復員省人事局長
第二復員省經理局長

關係各廳長殿

本年年末賞與支給ニ關スル件申進

本年官房人第一七號ニ依ル首題賞與ハ昭和十九年海人三機密第一〇號ノ四ニ依ルノ外左記ニ依リ取扱フモノト了知相成度

記

- 一 各省(廳)職員トシテ專任セラレタル定員外海軍武官ニシテ本年十二月十五日以前第二復員部内ニ復歸シタルモノニ對シテハ其ノ勤務期間ヲ第二復員部内ニ於ケル勤務期間ニ通算シ算出シタル金額ヲ現所屬廳ニ於テ支給ス
- 二 昭和十六年勅令第千二百四號ニ依リ部外ノ文官同待遇者ヨ

1919

リ第二復員文官同待遇者ニ轉官職セシメラレタル者及明治三十八年勅令第四十三號ニ依リ所屬官廳ノ定員外ト爲リ第二復員部内ニ勤務セシメラレタル者等(以下臨時職員ト稱ス)ニ對シテハ左ニ依ルモノトス

(イ) 十二月十五日現在ニ於テ臨時職員タリシ者ニ對シテハ本賞與ノ全期間勤務セシモノト看做シ其ノ賞與金全額ヲ支給ス

(ロ) 十二月十五日以前第二復員部内ヨリ轉出スル臨時職員ニ對シテハ支給セズ

三 前各號ニ該當スル者ノ中十二月十五日附發令ノ者ニ對シテハ新所屬(廳)ニ於テ夫々其ノ賞與金全額ヲ支給スルモノトス

○難 款

○移轉
第二復員省經理局會計課係給家族渡係ハ十二月八日東京都麹町區日比谷公園内(舊東京警備隊跡)ニ移轉セリ
(第二復員省經理局)

○正誤
十二月十日附第二復員省公報第五號令連欄一八頁連第七號第三條中「準シ」ハ「應シ」ノ誤

第二復員省公報 第一〇號

昭和二十年十二月十八日(火)
第二復員大臣官房

命令 達

内令第四號

元海軍艦船又ハ特設艦船ニシテ掃海又ハ復員輸送任務ニ従事スル艦船ハバ夫々掃海艦船又ハ特別輸送艦船トシ其ノ所管及所屬ヲ指定ス

所屬ノ指定ナキモノノ所屬ハ其ノ所管ト同一トス

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

内令第五號

- 元第一號 驅潛特務艇 元第八十號 驅潛特務艇
- 元第八十八號 驅潛特務艇 元第二百二號 驅潛特務艇
- 元第八十八號 驅潛特務艇 元第十一號 掃海特務艇
- 元第一百五十五號 驅潛特務艇 元第十二號 掃海特務艇
- 元第一百五十九號 驅潛特務艇 元第十三號 掃海特務艇
- 元第一百六十一號 驅潛特務艇 元第十四號 掃海特務艇
- 元第一百七十一號 驅潛特務艇

右掃海艦トシ横須賀地方復員局所管ト定ム

- 元第四十八號 海防艦 元第二百二號 海防艦
- 元第七十六號 海防艦 元第四百四號 海防艦
- 元第七十七號 海防艦 元第五百十四號 海防艦

第二復員省公報 第一〇號 昭和二十年十二月十八日

- 元第二百五十六號 海防艦 元第七十四號 驅潛特務艇
- 元第二百十七號 海防艦 元第七十五號 驅潛特務艇
- 元敷設特務艇 黒 元第七十九號 驅潛特務艇
- 同 片 島 元第八十六號 驅潛特務艇
- 元第一百二號 哨戒特務艇 元第八十七號 驅潛特務艇
- 元第三百三十五號 哨戒特務艇 元第九十八號 驅潛特務艇
- 元第三百三十六號 哨戒特務艇 元第二百九十四號 驅潛特務艇
- 元第三百三十七號 哨戒特務艇 元第二百九十五號 驅潛特務艇
- 元第三百五十二號 哨戒特務艇 元第二百九十七號 驅潛特務艇
- 元第三百五十三號 哨戒特務艇 元第二百九十七號 驅潛特務艇
- 元第三百七十五號 哨戒特務艇 元第二百九十七號 驅潛特務艇
- 元第三百七十九號 哨戒特務艇 元第二百九十七號 驅潛特務艇
- 元第七十九號 驅潛特務艇 元第二百三十九號 驅潛特務艇
- 元第八十六號 驅潛特務艇 元第二百四十號 驅潛特務艇
- 元第一百六十四號 驅潛特務艇 元第二百四十六號 驅潛特務艇
- 右掃海艦トシ吳地方復員局所管ト定ム
- 元海防艦 竹 元第十二號 海防艦
- 同 生 元第二十二號 海防艦
- 同 鶴 元第二十六號 海防艦
- 同 新 元第四十號 海防艦
- 同 志 元第七十六號 哨戒特務艇
- 元第七十六號 哨戒特務艇

1920

元第二百二十一號海防艦	元敷設艇	巨	同	高砂丸	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
元第二百二十五號海防艦	同	濟州	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
元第二百二十七號海防艦	元敷設特務艇	加德	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
元第三百三十七號輸送艦	同	黑島	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
元第三百七十二號輸送艦	同	鷺崎	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
元第二十三號驅潛艇	元第十九號掃海特務艇	同	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
元第六十號驅潛艇	元第二十號掃海特務艇	同	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム						右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム
元驅逐艦夕風	元第八十一號海防艦	同	同	同	同	右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム
同	元第八十五號海防艦	同	同	同	同	右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム
同	元第八十七號海防艦	同	同	同	同	右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム
同	元第一百五十八號海防艦	同	同	同	同	右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム
同	元第一百六十號海防艦	同	同	同	同	右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム
同	元第二百五號海防艦	同	同	同	同	右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム
同	元第二百七號海防艦	同	同	同	同	右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム
元海防艦	元第二十一號掃海艇	同	同	同	同	右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム
同	同	同	同	同	同	右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム
同	同	同	同	同	同	右特別輸送船トシ佐世保地方復員局所管ト定ム
右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム						右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
元雜役船栗橋	汽船水川丸	同	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
汽船長運丸	同	同	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
同	同	同	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
同	同	同	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
同	同	同	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム						右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
汽船高榮丸	同	同	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
同	同	同	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム						右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム
汽船第三日正丸	汽船紀進丸	同	同	同	同	右特別輸送船トシ舞鶴地方復員局所管ト定ム

三二

1923

同 博多支部	舞鶴地方復員局 掃海部舞鶴支部	同 境支部	同 敦賀支部	同 七尾支部	同 新潟支部	驅潛特第二百十八號 同 第二百三十一號 同 第二百三十四號 同 第二百四十二號 同 第二百四十七號 掃特 第十五號 同 第十六號 驅潛特第七十一號 同 第二百四十九號 驅潛特第五十七號 同 第六十六號 同 第二百十九號 驅潛特第八十四號 驅潛特第一百五十七號 驅潛特第六十二號 哨特 第八十四號 驅潛特第二百三十六號	雜役船(曳船)一隻 第二鮮友丸 第三鮮友丸 阿津丸
大阪地方復員局 掃海部大阪支部	大湊地方復員局 掃海部大湊支部	同	同	同	同	同 第八十三號 同 第八十五號 同 第二百二十一號 同 第二百四十一號 掃特 第二十一號 同 第二十二號 驅潛特第五十八號 同 第六十五號 同 第七十二號 同 第七十八號 同 第八十一號 同 第八十三號 同 第九十四號 同 第九十六號 同 第二百三號 同 第二百十二號 掃特 第十七號 同 第十八號	第三高島丸 太東丸 親和丸 雜役船(曳船)三隻
考備 所屬ノ指定ナキモノノ所屬ハ其ノ所管ト同一トス							

1925

第二復員省公報 第二一號

昭和二十年十二月十九日

第二復員大臣 官房

○ 令 達

達第九號

第二復員部内勤務員ニ對スル海軍懲罰令ノ適用ニ關シ左ノ通定

昭和二十年勅令第六百八十六號第三條及同年勅令第六百八十七號第十二條ノ規定ニ依リ第二復員官、第二復員官補及第二復員部内ノ支管ニ對スル海軍懲罰令ノ適用ニ關シテハ第二復員次官ニ對シ大臣官房所屬職員ニ對シ地方復員局長官ハ其ノ部下職員ニ對シ各之ヲ長官ト看做シ第二復員省局長、大臣官房ノ各部課ノ長、地方復員局ノ部長、支部長及上陸地連絡所ノ首席職員、地方復員人事部ノ部長及支部長、第二復員裁判所ノ首席法務官、第二復員刑務所ノ所長並ニ特別輸送艦及掃海艦ノ長ハ各其ノ部下ニ屬スル者ニ對シ之ヲ所轄長ト看做ス

昭和二十年内令第二號第四項ノ規定ニ依リ第二復員部内ニ勤務スル海軍兵ニ對スル海軍懲罰令ノ適用ニ關シ亦前項ニ同シ

昭和二十年十二月一日

第二復員 大臣

達第一〇號

第二復員省廳職名呼出略語別冊ノ通定ヲ昭和二十一年一月一日

第二復員省公報 第二一號 昭和二十年十二月十九日

ヨリ之ヲ實施ス

別冊ハ所要ノ向エ之ヲ配付ス

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣 官房

達第一一號

地方復員局ニ於ケル物品出納命令官及物品會計官吏ノ區分ニ左表ノ通定ス

昭和二十年十二月一日

第二復員 大臣

品名	出納命令官	會計官吏
地方復員局所屬物品(艦船用物件及事業用物件ヲ除ク)	經理部長	經理部部員
艦船(運航及掃海)用物件	需品部長	需品部部員
管業部所屬用物件	管業部長	管業部部員

備考 會計官吏ハ出納命令官之ヲ命命シ其ノ旨報告スベシ

○ 通 牒

官房總第二八號

昭和二十年十二月十七日

第二復員 次官

各地方復員局長官殿

海軍ノ堀鑿セル地下壕ノ處分ニ關スル件申進

今次戰爭中堀鑿セル地下壕ハ左記ニヨリ處分ノコトニ定メラレタルニ付之ヲ堀鑿シタル官廳部隊(既ニ解散セラレタルモノハ其ノ所屬廳)ニ於テ適切ニ處理相成度

記

一 壕ノ管理使用

地表所有者ニ無償讓渡スルヲ原則トス但シ特殊ノモノハ所在都道府縣又ハ市町村ニ移管ス

二 危険防止措置

(イ) 現狀ノ儘放置スルモ崩壞等危険發生ノ虞ナキモノ及危険發生スルモ他ニ損害ヲ及ボス虞ナキモノニ付テハ現狀ノ儘放置スルコトトシ然ラザルモノニ付テハ補強、埋戻シ等樹力危険發生防止ノ措置ヲ講ズ

(ロ) 危険防止ノ爲ノ工事ハ當該壕ヲ堀鑿シタル軍又ハ官廳ガ自己ノ責任ニ於テ之ヲ爲スヲ原則トスルモ解散、廢廳其ノ他事情已ムヲ得ザル場合ニハ都道府縣又ハ市町村ニ其ノ工事ヲ委託スルコトヲ得(書面ヲ以テ委託スルコト)

危険防止ノ爲ノ工事ヲ都道府縣又ハ市町村ニ委託シタル場合其ノ工事ニ要シタル費用ハ請求ヲ俟テ其ノ壕ヲ堀鑿シタル軍又ハ官廳ニ於テ之ヲ負擔ス
(ハ) 地上施設ノ所有者等ヨリ自己ノ負擔ニ於テ危険防止ノ措

置ヲ講ズル爲ニ其ノ費用ノ請求アリタル場合ニハ實費相當額ノ賠償(諸支出金、賠償金)ニ應ズルコトヲ得其ノ場合ニハ關係者ヨリ將來危険發生スルモ損害賠償請求等異議ノ申立ヲ爲サザル如ク保證書ヲ徴ス

三 損害賠償

(イ) 現實ニ崩壞等ノ危険發生シ地上施設等ニ損害ヲ及ボシタル場合(損害ヲ受ケタル地上施設等ガ官ノ所有ニ屬スル場合ヲ除ク)ニハ其ノ壕ヲ堀鑿シタル軍又ハ官廳ニ於テ其ノ損害ヲ賠償ス

(ロ) 賠償額ハ現實ニ發生シタル損害ノ程度ニ應ジ適正ニ之ヲ定ム

備考

本件申ノ軍ノ責任ハ昭和二十年十二月一日以降復員省之ヲ繼承ス

○ 雜 款

○郵便物發送先
當分ノ間當艦宛ノ郵便物ハ左記へ送付相成度

記

神奈川縣浦賀局氣付

(特別輸送艦 神風)

第二復員省公報 第二三號

○令 達

達第一三號

海軍臨時家族手当支給規則中左ノ通改正ス

昭和二十年十二月十八日

第二復員大臣

「海軍臨時家族手当支給規則」ヲ「第二復員部内臨時家族手当支給規則」ニ改ム

第一條中「軍人（兵ヲ除ク）」ヲ「軍人（特別輸送艦ノ乗員以外）」ニ改ム

「外地ニ在ル者ヲ謂ヒ兵ヲ除ク」ニ、「海軍」ヲ「第二復員部内」ニ改ム

第二條中「五圓」ヲ「二十圓」ニ改ム

第五條ノ二ヲ削ル

第四條中「海軍部内」ヲ「第二復員部内」ニ改ム

第七條第二號ヲ左ノ如ク改ム

「休職ノトキハ其ノ翌月ヨリ復職ノ前月迄別紙様式備考中第六號ヲ削ル」

附 則

本達ハ昭和二十年十二月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

達第一四號

海軍軍人軍屬係給家族下渡規則中左ノ通改正ス

昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣官房

「海軍軍人軍屬係給家族下渡規則」ヲ「第二復員部内係給家族下渡規則」ニ改ム

第一條 第二復員部内職員内地外ニ在ルトキ又ハ艦船ニ乗組ミ航海ヲ爲ストキハ本則ニ依リ其ノ俸給（給料及報酬金ヲ含ム以下之ニ同ジ）ヲ家族ニ下渡スコトヲ得

第三條 削除

第五條中「海軍省經理局」ヲ「第二復員省經理局」ニ、「領守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部」ヲ「地方復員局經理部」ニ、「所管領守府所在地ノ海軍經理部（本邦ニ在ル警備府ニ所屬スル應ニ在リテハ當該警備府所在地ノ海軍經理部）」ヲ「屬スル地方復員局經理部」ニ改メ第四號ヲ削リ第五號ヲ第四號トス

同條中第二項乃至第四項ヲ削ル

第七條 俸給ノ家族下渡ニ際シ下渡廳長必要ト認メタルトキハ其ノ翌月分迄ヲ前金拂スルコトヲ得

第九條、第十條及第十一條中「海軍省經理局又ハ海軍經理部」ヲ「第二復員省經理局又ハ地方復員局經理部」ニ改ム

第十三條中「戦地若ハ準戦地ニ臨ミ」ヲ「内地外ニ於テ」ニ改ム

第二復員省公報 第二三號 昭和二十年十二月二十日

三七

1928

第十四條中「又ハ敵ノ俘虜ト爲リタルコト判明シタル日ノ屬スル月分」ヲ削ル

第十八條 前各條（第六條ヲ除ク）ノ規定ハ勤續手當、臨時家族手當、普通賞與（年末賞與、年度末賞與及臨時賞與ヲ謂フ）及特別賞與並ニ内地外ニ在ル者ノ戰時増俸及戰時増給ノ下渡ニ付之ヲ準用ス但シ此等ノ下渡ハ俸給ノ下渡ヲ爲シタル者ニ限リ之ヲ爲シ得ルモノトス

前項ノ規定ニ依リ下渡スベキ金額ハ各其ノ金額トス但シ戰時増俸及戰時増給ニ付テハ廳長必要ト認メタルトキハ所要ノ金額（十圓單位）トズ

第十九條ヲ削リ第十八條ノ二中「第三條」ヲ削リ「戰時増俸、賞與」ヲ「戰時増俸、戰時増給、普通賞與、特別賞與」ニ改メ同條ヲ第十九條トス

附則

本達ハ昭和二十年十二月一日ヨリ之ヲ適用ス
本達適用ニ依リ様式中不具合ナル部分ニ付テハ適宜變更スルコトヲ得

内令第八號

元第三十八號 驅潛艇

右掃海艦トシ佐世保地方復員局所管ト定ム

昭和二十年十二月十日

第二復員大臣

内令第九號

元第二十三號 驅潛艇

元敷設特務艇 黒島

右特別輸送艦トシ佐世保地方復員局所管ト定ム

昭和二十年十二月十日

第二復員大臣

内令第一〇號

元第二百四十八號 驅潛特務艇

元第二百五十號 驅潛特務艇

右掃海艦トシ佐世保地方復員局所管ト定ム

昭和二十年十二月十五日

第二復員大臣

内令第一一號

昭和二十年内令第七號中左ノ通改正ス

昭和二十年十二月十五日

第二復員大臣

表中佐世保地方復員局掃海部佐世保支部ノ項掃海艦名ノ欄「同第二百四十七號」ノ次ニ「同第二百四十八號、同第二百五十號」ヲ加フ

官房經第一二號

昭和十八年官房經第九三六號中第二號ヲ削除シ昭和二十年十二

月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
當分ノ間外地ニ在ル者ニ支給スル戰時増俸ハ判任文官待遇者ノ
額ニ依ル

昭和二十年十二月十八日

第二復員大臣

(參照)

海軍會計法規類集二卷 三九〇ノ一〇頁
昭和十八年官房經第九三六號ハ判任官ノ待遇ト
爲リタル雇員ノ給與ニ關スル件ナリ

官房經第一三號

昭和十五年官房機密第四一六二號中「兵」ヲ「外地ニ在ル兵」
ニ改メ「(加給ヲ含ム)」ヲ削ル

本令ハ昭和二十年十二月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

昭和二十年十二月十八日

第二復員大臣

(參照)

海軍機密會計法規類集 三〇〇頁

○通牒

二復經理局主第七號ノ二

昭和二十年十二月十八日

第二復員省經理局長

關係各廳長殿

第二復員省公報 第一二號 昭和二十年十二月二十日

外地歸還海軍軍人軍屬ノ解員ノ際ニ於ケル給

與取扱ニ關スル件ニ改正ノ件通牒

昭和二十年經給第一四三號中左ノ通改正致候

第一號中「外地(海軍戰時特例給與規則第一條ノ二ノ戰地及準

戰地並ニ樺太ヲ謂フ)」ヲ「内地以外ノ地」ニ、「海軍復員收容

部員タル資金前渡官吏(以下單ニ海軍復員收容部員ト稱

ス)」ヲ「地方復員局上陸地連絡所復員部主計課長(以下單ニ復

員部主計課長ト稱ス)」ニ改ム

第二號乃至第六號削除

第七號及第十三號中「海軍復員收容部員」ヲ「復員部主計課

長」ニ改ム

第九號中「海軍復員收容部」ヲ「上陸地連絡所復員部」ニ改ム

第十號中「海軍復員收容部又ハ海軍病院」ヲ「上陸地連絡所復

員部」ニ改ム

第十一號中「海軍復員收容部員」ヲ「復員部主計課長」ニ改

メ「乙片(俸給等家族渡中ノ者ノ分タルト否トヲ問ハズ)ヲ切

取リ之」及但書ヲ削ル

第十二號中「海軍軍人軍屬俸給家族下渡規則」ヲ「第二復員部

内係給家族下渡規則」ニ、「解員ノ月ヲ含ミ三月分ヲ前金拂(送

金)ヲ爲スモノトス」ヲ「解員ノ月ノ末日迄之ヲ支給スルコト

ヲ得」ニ改ム

第十四號乃至第十九號ヲ削ル

別紙様式中甲片ノ部分ヲ削リ乙片ノ部分中「乙片」ヲ削ル

1930

附則

本通牒ハ昭和二十年十二月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第十二號改正中前金拂ニ關スル部分ハ昭和二十年十二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

二復員省主第七號ノ三

昭和二十年十二月十八日

第二復員省經理局長

關係各廳長殿

俸給家族下渡實施細目ニ關スル件中改正ノ件

通牒

昭和十九年經給第一一四號中左ノ通改正致候

第一號乃至第五號削除

第八號中「賞與」ヲ「普通賞與」ニ改ム

第十一號ノ二中「海軍」ヲ「第二復員部内ニ於テ」ニ改ム

第十三號ヲ削リ第十四號ヲ第十三號トシ第十五號ヲ第十四號トシ第十六號ヲ第十五號トス

十七 昭和二十年六月特別賞與ヲ家族ニ下渡シタル者ニシテ現ニ俸給ノ下渡ヲ爲シアルモノニ付テハ本人ノ請求ヲ要セズ

テ昭和二十年十二月以降特別賞與ノ下渡ヲ爲スコト

第十八號ヲ削リ第十九號中「規則第十八條ノ二」ヲ「規則第十九條」ニ、「軍屬」ヲ「文官等」ニ改メ同號ヲ第十六號トス

二復員省主第七號ノ四

昭和二十年十二月十八日

昭和二十年十二月十八日

關係各廳長殿

第二復員省經理局長

兵ノ臨時家族手当相當額支給ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十六年經給機密第一〇號中「(加給ヲ含ム)」ヲ削ル

(參照) 海軍機密會計法規類集 二九九頁

二復員省主第七號ノ七

昭和二十年十二月十八日

第二復員省經理局長

關係各廳長殿

臨時家族手当支給ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十七年經給第六一號中左記ノ通改正致候

第二號乃至第四號ヲ削リ第五號中「海軍」ヲ「第二復員」ニ改メ同號ヲ第二號トス

(參照) 海軍會計法規類集二卷 四八八頁

〇 雜 款

〇事務開始

橫須賀地方復員局人事部千葉支部ハ十二月十日千葉市寒川町二丁目八番地(電話千葉六五七番)ニ於テ事務ヲ開始セリ

(橫須賀地方復員局人事部)

第二復員省公報 第二三號

昭和二十年十二月二十一日(金)
第二復員大臣官房

○令 達

達第一二號
地方復員局處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年十二月十七日

第二復員大臣

第十二條表中央地方復員局上陸地連絡所ノ項「門司」ヲ削リ
佐世保地方復員局上陸地連絡所ノ項「鹿兒島」ノ下ニ「門司」
ヲ加フ

(十二月一日第二復員省公報參照)

内令第一二號

掃海艦船及特別輸送艦船ノ呼稱ニ關シ左ノ通定ム

昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

元軍艦 何ハ掃海艦又ハ特別輸送艦何トス
元驅逐艦 何ハ同 何トス
元海防艦 何ハ同 何トス
元第何號海防艦ハ同 海第何號トス
元第何號輸送艦ハ同 輸第何號トス

第二復員省公報 第二三號 昭和二十年十二月二十一日

元第何號掃海艇ハ同 掃第何號トス
元第何號驅潛艇ハ同 驅潛第何號トス
元敷設艇 何ハ同 何トス
元第何號敷設艇ハ同 敷第何號トス
元第何號哨戒艇ハ同 哨第何號トス
元特務艦 何ハ同 何トス
元敷設特務艇 何ハ同 何トス
元第何號敷設特務艇ハ同 敷特第何號トス
元第何號驅潛特務艇ハ同 驅潛特第何號トス
元雜役船 何ハ掃海艦又ハ特別輸送艦何トス 雜第何號トス
元特設艦船 何ハ同 何トス

官房人第一九號

本年内令第一二號掃海艦船及特別輸送艦船ノ呼稱ニ關スル件施行ノ際現ニ當該艦船ノ職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ新名稱ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

四一

1932

官房經第一四號

昭和二十年官房經第四九七號中左ノ通改正ス

昭和二十年十二月二十日

第二復員 大臣

第一號及第二號中「支出官」ノ下ニ「又ハ資金前渡官吏」ヲ加ヘ第二號中「三通」ヲ「四通」ニ、第二號及第四號中「海軍省」ヲ「第二復員省」ニ改ム

○ 通 牒

二復經理局第一號

昭和二十年十二月一日

第二復員省總務局長

第二復員省經理局長

關係各廳長
特別輸送艦艇長 殿

日用品等配給ニ關スル件通牒

舊海軍艦艇ニ依リ外地ヨリ引揚ノ軍官民並ニ掃海其ノ他終戰事務ニ従事スルモノニ對スル中央統制日用品(舊酒保物品等)ノ配給ヲ左記ニ依リ實施ノコトトセルニ付了知アリ度

記

一 配給先

經理局長ノ定ムル品種及配給標準ニ依リ左記用途ノモノニ限リ配給スルモノトス

(ロ)(イ) 戰時特別給與品
左記ノ者ニ必要ナル日用品

配 給 對 象	記 事
1. 掃海艇乘員	已ムヲ得ザル事情アル民間引揚船ヲ含ム
2. 特別輸送艦艇乘員	不便中戰時特別給與品ニテ不足スル日用品
3. 特別輸送艦艇便乗中ノ引揚軍官民	上陸地連絡所内及歸郷地迄ノ旅行中必要ナル日用品
4. 特別輸送艦艇ニ依リ引揚中ノ軍官民	資材及特別輸送艦艇船腹ノ許ス範圍内
5. 外地殘留員	家庭ニ非ズシテ寄宿生活ヲ營ムモノ等ニ對スル日用品
6. 各管制廳ノ特ニ定ムルモノ	

(ハ) 接待用品

二 配給機關

經理局長トノ寄託契約ニ基キ淺野物産株式會社ヲシテ左記ノ如ク出張(派出)所ヲ設置シ經理局ニ代リ配給事務及作業ニ當ラシムルモノトス

管制擔當經理部	出張(派出)所	場 所
橫須賀地方 復員局經理部	久里濱出張所	橫須賀市久里濱
大湊地方 復員局經理部	浦賀派出所	橫須賀市浦賀
	大湊出張所	青森縣大湊町

舞鶴地方 復員局 經理部	舞鶴出張所	舞鶴市
	博多出張所	博多市
佐世保地方 復員局 經理部	佐世保出張所	佐世保市
	針尾出張所	長崎縣針尾町
吳地方 復員局 經理部	吳出張所	吳市
	大竹出張所	廣島縣大竹町

備考 淺野物産株式會社準備完了迄ハ海仁會配給所ニ於テ實施スルモ十二月末日迄ニハ全部引繼完了ノ見込

三 配給要領

(イ) 第二復員省經理局ニ於テ一括裏附資材ノ取得、調達契約ノ締結、配給計畫ノ策定出荷指示等ヲ實施ス

(ロ) 淺野物産株式會社ハ經理局契約ノ本品ヲ經理局ニ代リ代金支拂ノ上荷受保管シ置クモノトス

(ハ) 一號ノ本品ヲ要求セントスル關係各部ハ管制擔當地方復員局經理部ノ定ムル處ニ依リ淺野物産株式會社ノ各出張所(派出)所ニ請求スルモノトス

(ニ) 淺野物産株式會社ハ前項ノ請求アリタルトキハ荷造包裝ノ上舷側又ハ庫前渡ニテ關係各部ノ主計課長又ハ之ニ準ズルモノニ引渡スモノトス

(ホ) 淺野物産株式會社出張(派出)所ハ淺野物産株式會社引取價格(經理局契約價格)ニ經理局所定ノ寄託料ヲ加算セ

ル價格ヲ以テ販賣スルモノトス

四 部内整理要領

酒保設置規程第三條第四條第八條第九條第九條ノ二第十條第十一條ヲ準用ス

二〇 準軍第二一號 委託契約書

海軍省經理局長山本丑之助(以下甲ト稱ス)ハ海軍艦艇ニ依リ外地ヨリ引揚ノ軍官民其ノ他甲ノ指定スルモノニ對スル戰時特別給與品其ノ他日用品等(以下本品ト稱ス)ノ補給事務及作業ヲ委託スルタメ淺野物産株式會社副社長二宮 新(以下乙ト稱ス)ト契約スルコト左ノ如シ

第一條 乙ハ甲ノ斡旋契約又ハ割當ニ基キ甲ニ代リ本品ヲ引取リ保管スルト共ニ之方代金ノ支拂ヲ爲スモノトス

第二條 乙ハ關係各部(以下丙ト稱ス)ノ請求アリタルトキハ遲滞ナク甲ノ指示スル標準ニ依リ本品ヲ賣却スルモノトス

第三條 第二條ノ乙ノ賣却價格ハ第一條ノ甲ノ契約スル價格ニ一五%ヲ加算スルモノトシ乙ハ其ノ加算額ヲ以テ其ノ受託ニ要スル一切ノ經費危險ヲ支辨スルモノトス

第四條 乙ハ甲ノ指定スル用途以外ニ本品ヲ販賣又ハ交付スルコトヲ得ザルモノトス乙ハ受託中本品ノ亡失毀損等アリタル場合ハ其ノ原因ガ天災其ノ他不可抗力等防制スベカラザル場合ノ外甲ノ査定ニ依リ現物辨償ノ責ヲ負フモノトス

1934

第五條 本契約ニ定ムルモノノ外海軍契約規程並ニ同施行手續ニ依ルモノトス

第六條 本契約ハ契約締結ノ日ヨリ有効ナルモノトス
昭和二十年十一月十四日

海軍省經理局長 山本丑之助
淺野物産株式會社
副社長 二宮 新

○ 雜 款

○轉官
第二復員技師佐々木 淳ハ十二月十三日外務技師ニ轉官セリ

○失官
海軍書記 [] ハ強制猥褻、戰地強姦、逮捕監禁罪ニ因リ懲役八年ニ處スルノ裁判確定シ客年十二月二十二日失官ト爲レリ

1935

第二復員省公報 第一四號

○令 達

達第一六號

昭和十四年達第二五二號海軍文官同待遇者雇員備人本務ヲ行フ際及海軍武官平服着用ノ場合徽章附著ノ件ハ當分ノ間第二復員省內ニ之ヲ適用ス但シ現ニ徽章ヲ有セザル高等官同待遇者ニ在リテハ士官ノ舊襟章用櫻花章一個ヲ以テ之ニ代ヘ判任官以下ニ在リテハ新調ノトキ迄之ヲ附著セザルコトヲ得

昭和二十年十二月二十五日

第二復員大臣

内令第一三號

第二復員省等ニ海軍軍人ヲ置ク等ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

第一項中「及地方復員人事部」ヲ「地方復員人事部、第二復員裁判所及第二復員刑務所」ニ改ム

(十二月三日第二復員省公報内令第一號參照)

内令第一四號

驅潜隊編制中左ノ通改定セラル

第二復員省公報 第一四號

昭和二十年十二月二十六日

昭和二十年十二月二十日
第二復員大臣 官房

昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

第十一驅潜隊ノ項中「第九號」ヲ削ル

内令第一五號

元吳鎮守府在籍

第九號 驅潜艇

右帝國驅潜艇籍ヨリ除カル

昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

内令第一六號

元第九號 驅潜艇

右特別輸送艦トシテ所管ト定ム

昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

○通 牒

官房第四號

昭和二十年十二月十五日

第二復員大臣官房庶務課長

四五

1936

關係各廳長殿

復員收容部ニ收容中ノ軍官民ニ對スル糧食給與ニ關スル件通知

昭和二十年十二月一日官房需第二號別紙第三號復員收容部ニ收容中ノ軍官民ニ對スル糧食給與ノ件ハ地方引揚援護局ノ所掌事項トナリタルニ付自然消滅ノ儀ト了知相成度

○雜款

○移轉

營部ハ十二月四日札幌市北一條西四十四丁目ニ移轉セリ

電話番號
〔札幌五六五六番〕
〔札幌六一九四番〕

(札幌地方復員人事部)

○事務開始

營部ハ十二月一日左記ニ於テ事務ヲ開始セリ

記

舞鶴市宇濱(舊施設部廳舎)

總務班

同 (舊舞鶴海兵團)

補充班

(舞鶴地方復員局艦船運航部)

當部ヲ十二月十一日廣島縣安藝郡船越町日本製綱廣島製作所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(吳地方復員局人事部廣島支部)

○取消

左記ノ者ハ十二月二十一日官房人第五一〇號ニ依ル召集ヲ取消サレタリ

記

海軍軍醫少佐	菅屋敏男(六八)
同	早川五郎(七七)
海軍軍醫大尉	阿部和男(二三)
同	塚本淳(二三)
同	夏秋繁生(二六)
同	松井太一(二七)
同	白髭壽男(三〇)
同	原廣之(三〇)

○失官

休職海軍技師 [] ハ戰時收賄罪ニ因リ徵役一年六月ニ處スルノ裁判確定シ九月十二日失官ト爲レリ

第二復員省公報 第一五號

昭和二十年十二月二十八日(金)
第二復員大臣官房

○ 令 達

達第一五號

第二復員部内職員給與規則左ノ通定ム

昭和二十年十二月十八日

第二復員大臣

第二復員部内職員給與規則

第一章 總 則

第一條 第二復員部内職員ノ給與ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外本則ニ依ル

第二條 本則ニ於テ第二復員部内職員トハ第二復員部内ニ於テ勤務スル文官同待遇者、囑託者、雇員及傭人ヲ謂ヒ特ニ規定スル場合ヲ除クシテ終戦前海軍ヨリ外地(朝鮮、臺灣、南西諸島、樺太、千島諸島、南洋群島及其ノ他南方諸地域ヲ謂フ以下之ニ同ジ)ニ派遣セラレ未ダ解員又ハ整理セラレザル軍人軍屬ヲ含マズ

第三條 職員艦船ニ乗組ミ航海ヲ爲ストキハ出航ノ際其ノ翌月迄ノ俸給又ハ給料ヲ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第二章 給 料

第四條 召集中ノ海軍兵タルノ身分ヲ有スル僱雇員ニ採用セラ

第二復員省公報 第一五號 昭和二十年十二月二十八日

レタル者ノ給料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス
兵 長 月給 六五圓
上等兵 同 六〇圓
一等兵 同 五五圓

第五條 前條ノ規定ニ該當スル者兵ノ身分ニ於テ進級シタルトキハ新等級ニ付前條ノ規定ニ依ル給料ヲ支給ス
前項ノ規定ニ該當スル者ハ雇員トシテノ定期増給ハ之ヲ行ハズ

第三章 航海加俸、航海増給

第六條 輸送任務又ハ掃海作業ニ従事スル爲艦船ニ乗組ム文官同待遇者、雇員及傭人ニハ第一表ニ依リ航海加俸又ハ航海増給ヲ支給ス但シ航海加俸ノ額海軍給與令第五表ニ定ムル航海加俸ノ額ヨリ少キトキハ其ノ多額ニ付之ヲ支給ス
前項ノ増給ノ支給區分ハ航海加俸支給ノ例ニ依ル

第四章 勞務手當

第七條 前條ノ規定ニ該當スル雇員及傭人ニハ廳長ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ依リ手當ヲ支給スルコトヲ得
一 機關部員ニシテ石炭ノ焚火又ハ運搬ニ従事スルモノニハ艦船乗組中月額二十五圓以内
二 機關部員ニシテ前號ニ該當セザルモノニハ艦船乗組中月額

四七

1938

額十圓以内

三 烹炊又ハ電信ノ業務ニ従事スル者ニハ艦船乗組中月額五圓以内

前項ノ規定ハ廳長必要ト認メタル場合ニ限り前條ノ規定ニ該當スル復員官補(判任官一等ノ者ヲ除ク)ニ之ヲ準用スルコトヲ得

前二項ノ手當ノ支給區分ハ給料支給ノ例ニ依ル

第五章 被服料及被服

第八條 第四條ノ規定ニ該當スル雇員ニハ採用ノ際一回限り初度手當トシテ六十圓ヲ支給ス

前項ノ規定ニ該當スル者ニハ保綴手當トシテ月額五圓ヲ支給ス
前二項ノ手當ノ支給區分ハ雇員備人被服料支給規則ヲ準用ス

第九條 第六條ノ規定ニ該當スル雇員及備人ニハ廳長ノ定ムル所ニ依リ作業衣袴、作業帽又ハ略帽、外套、雨衣、略靴及手袋ヲ貸與スルコトヲ得但シ外套及雨衣ニ在リテハ雇員及備人ノ員數ノ半數以内ヲ標準トシテ貸與スルモノトス

前項ノ規定ハ下士官ヨリ任用セラレタル復員官補ニ付之ヲ準用スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ被服ノ貸與ヲ受ケタル者ニ支給スル被服料ハ五割以内之ヲ減額スルモノトス

第六章 糧食及食料

第十條 艦船乗員(陸上ニ在ル豫備員ヲ含ム)ニハ別ニ定ムル所ニ依リ糧食ヲ給與ス

艦船乗員タル委任官及判任官一等ノモノニハ食數ニ應ジ一食

ニ付十錢ノ食料ヲ併給スルコトヲ得

第十二條 前條ノ規定ニ依リ糧食ノ給與ヲ受クル者服務午後九時以後ニ及ブトキハ一夜ニ付五十錢以内ノ夜食料ヲ支給スルコトヲ得

第十二條 前二條ノ糧食及食料ハ公暇、賜暇、公務旅行又ハ私事ニ因リ乘組艦船又ハ勤務廳ニ在ラザルトキハ其ノ間之ヲ支給セズ

第十三條 職員ニシテ居殘服務又ハ宿直勤務ヲ命ゼラレタルトキハ第二表ニ依リ居殘食料ヲ支給ス

前項ノ食料ハ毎月前月ノ二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ノ分ヲ俸給ト同日ニ支給ス

第七章 治療

第十四條 召集中ノ海軍下士官兵タル身分ヲ有スル復員官補(判任官一等ノ者ヲ除ク)ニ任用セラレ若ハ雇員ト爲リタル者又ハ第六條ノ規定ニ該當スル者傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ治療ニ要スル費用ハ官費支辨トス

第八章 埋葬

第十五條 召集中ノ海軍下士官兵タル身分ヲ有スル復員官補(判任官一等ノ者ヲ除ク以下本條ニ於テ之ニ同ジ)ニ任用セラレ若ハ雇員ト爲リタル者又ハ第六條ノ規定ニ該當スル者死亡(内地ニ在ル文官同待遇者(復員官補ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ死亡公務ニ起因スル場合ニ限ル)シタルトキハ官ニ於テ之ヲ埋葬シ又ハ死體、遺骨、遺物等ヲ遺族若ハ故舊ニ引渡ス爲必要ナル諸費ハ官費支辨ト爲スコトヲ得

1939

復員官補若ハ兵タル身分ヲ有スル雇員又ハ第六條ノ規定ニ該當スル者死亡(内地ニ在ル文官同待遇者(復員官補ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ死亡公務ニ起因スル場合ニ限ル)シタル場合ニ於テ其ノ死體、遺骨、遺物等ヲ遺族又ハ故舊ニ引渡ストキハ其ノ際第三表ニ依リ葬祭料ヲ支給スルコトヲ得

附則

本達ハ昭和二十年十二月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス左ニ掲グル令達ハ第二復員部内職員(外地ニ在ル海軍軍人軍屬ヲ含ム)ニ之ヲ適用ス

海軍給與令施行細則

雇員備入給與規則

雇員備入被服料支給規則

昭和十五年官房第一六四六號雇員備入ノ増給ニ關スル件
(海軍會計法規類集二卷 四一五頁)

雇員備入扶助金支給規則

昭和十八年官房第四三九號北海道在勤増給ノ件
(海軍機密會計法規類集 一五三頁)

海軍内國旅費規則
(海軍會計法規類集二卷 五九五頁)

海軍南洋群島關東州滿洲旅費規則

海軍外國旅費規則

大東亞戰爭海軍所得稅徵收手續特別

大東亞戰爭海軍國庫納付手續特別

(昭和二十年六月十日秘公報)
(昭和二十年五月二十六日秘公報)

明治四十四年達第百三十六號年額又ハ月額ノ報酬金支給日ノ件
(海軍會計法規類集二卷 四〇五頁)

昭和十八年官房第一一六〇號海軍病院ノ結核病舎ニ勤務スル看護婦ニ手當支給ノ件
(同 四一五頁)

昭和十九年官房經第七二七號傳染病舎ニ勤務スル看護婦ニ救治手當支給ノ件
(同 四一五頁)

昭和十九年官房經第五一號雇員備入工員又ハ鑛員ノ葬儀料ニ關スル件
(同 四一六頁)

昭和十八年官房經第七八九號第五燃料廠ニ勤務スル雇員及備入ノ給料ニ關スル件
(同 四一六頁)

昭和十六年官房第二五三三號軍需部ニ於ケル女子備入ニハ制服ヲ貸與シ被服料ヲ支給セザル件
(同 四二二頁)

昭和十七年官房第三一六一號守衛長守衛等ノ被服貸與ニ關スル件
(同 四二二ノ二頁)

大正十五年官房第二二七八號兼務者臨時艦船承租者派遣勤務員及承命服務者等ニ對スル諸給與支給細則
(同 六四六頁)

昭和十六年官房第一一一八號刑事被告事件ノ爲所屬ヲ轉シタル者旅行ノ場合移轉料其ノ他ノ件
(同 六四九頁)

昭和十八年官房經第四三七號陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタル文官等ノ俸給等ノ補給ニ關スル件
(同 八〇八ノ二三頁)

昭和十六年官房第四七七九號日本赤十字社救護員ノ給與取扱ニ關スル件
(同 八〇八ノ二四頁)

昭和十七年官房第三五四二號海軍ノ戰時衛生勤務ニ服スル日本赤十字社救護員ノ給與ニ關スル件 (同) 八〇八ノ二七ノ二頁

昭和十五年官房第五三一三號外國ニ在勤シ若ハ駐在スル者又ハ出張滞在スル者ノ給與ニ關スル件 (同) 八〇八ノ二七ノ五頁

昭和二十年官房經第二〇九號勤続三年以上ノ雇員又ハ傭人ニ臨時増給ノ件 (昭和二十年四月二十日公報) 戰時軍人軍屬旅費特例(海軍機密會計法規類集 二二九頁)

昭和十七年官房第二七〇四號海軍豫備學生ノ旅費支給ニ關スル件 (同) 二三九頁

左ニ掲グル令達ハ之ヲ廢止ス

海軍戰時特例給與規則

海軍應徵船員給與規則

潜水艦特別任務加俸支給規則

潜航艇加俸支給規則

僻地在勤手当支給規則

化學兵器手当支給規則

大東亞戰爭雇員傭人扶助金支給規則

昭和十七年官房第四五八五號大東亞戰爭ニ際シ海軍ノ勤務ニ服スル部外者ノ身上取扱或ニ給與ニ關スル件 (海軍機密會計法規類集 一四四頁)

昭和十九年官房經第七六〇號タイ、ビルマ又ハフィリピン國在勤帝國大使館附武官府勤務ノ囑託者ノ雇員、傭人ノ在勤増給ニ關スル件(同) 一五三頁

昭和十六年官房第五八八六號軍用ノ滑空機ニ搭乘スル職ニ在ル者ノ航空加俸ノ支給ニ關スル件 (同) 一六三頁

昭和十九年官房經機密第一七六〇號特殊滑空機搭乗員ノ航空加俸等支給ニ關スル件 (同) 一六三頁

昭和十八年官房經機密第二六八號飛行特技員ノ航空加俸支給ニ關スル件 (同) 一六五頁

昭和十八年官房經機密第三五五號特設航空輸送隊ノ航空加俸支給ニ關スル件 (同) 一六六頁

昭和十九年官房經機密第一八一號陸軍軍人ニ航空加俸ノ支給或ニ被服物品貸與ノ件 (同) 一六六頁

昭和十七年官房機密第一〇一四八號港灣防備ノ任務ヲ有スル氣球班長以下ニ航空加俸支給ノ件 (同) 一六七頁

昭和十七年官房機密第一〇八〇〇號艦裝員又ハ艦裝員附ニ航空加俸支給ノ件 (同) 一六七頁

昭和十九年官房經機密第三八號第二搭乗配置ニ在ル者ト看做シ航空加俸支給ニ關スル件 (同) 一六七頁

昭和十九年官房經機密第三八〇號特設飛行隊ニ於テ第一及第二搭乗配置ニ在ル者ノ航空加俸支給ニ關スル件 (同) 一六七頁

昭和十四年官房第七三九號僻地在勤手当ニ關スル件 (同) 一七六頁

昭和十九年官房經機密第一三〇八號化學兵器研究從事者及化學兵器ノ範圍ノ件(同) 一八五頁

1941

昭和十五年官房機密第四三四號海軍軍需部ニ於ケル雇員
傭人ノ増給ニ關スル件 (同) 一八六頁

昭和十二年官房機密第八號海軍燃料廠ニ於ケル雇員傭人
ノ増給ニ關スル件 (同) 一八七頁

昭和十八年官房機密第一八〇號特殊使役者ノ給與ニ關スル
件 (同) 二二六頁

昭和十七年官房第五三一九號被徵用者其ノ家族危篤又ハ
死亡ノ際許可ヲ受ケ歸省スルトキ等ノ旅費支給ニ關スル
件 (同) 二四一頁

昭和十八年官房機密第二五二號保健療養ノ爲保健場ニ
派遣セラルル軍人ノ旅費ニ關スル件 (同) 二四三頁

昭和十八年官房機密第五號海軍ニ召集スベキ第二補充
兵及第二國民兵ニシテ陸軍ニ於テ召集ヲ令達サレ旅行ス
ル者ノ旅費ニ關スル件 (同) 二四四頁

昭和十七年官房機密第四〇〇號所得稅徵收手續ニ關ス
ル件 (同) 三〇一頁

昭和十九年官房機密第一二二三號寄宿舎ニ收容ノ雇員、
傭人工員ノ寢具、損耗料ニ關スル件 (海軍機密會計法規類集 三三四ノ二頁)

昭和十七年官房第五一二六號工具又ハ鑛員ノ精勤手當支
給ニ關スル件 (同) 三四六頁

昭和十七年官房第七七八號雇員、傭人及工(鑛)員ノ
輸送費ニ關スル件 (同) 三六三頁

昭和十七年官房機密第六九一八號雇員、傭人、工具及鑛
員戰地外ノ戰時災害保護法適用ノ件 (同) 三〇一頁

昭和十五年官房第二〇二三號鑛打及鍛鍊ノ作業ニ從事ス
ル雇員ニ特殊事業加給ヲ支給スルノ件 (同) 三四四頁

昭和十七年官房第六〇五六號技手養成所練習工補修科工
員及見習科ヲ修了セル見習工ヲ工事ニ從事セシメタル場
合ノ給與ノ件 (同) 三五四頁

昭和九年官房第一〇五一號潜水艦乘員タルベキ下士官、
兵ニ關スル給與ノ件 (海軍會計法規類集二卷 二〇三頁)

昭和十七年官房第二三七六號携帶給與通牒ニ關スル件
(同) 二〇四頁

昭和十九年官房第五三四號國民勤勞報國隊員ノ給與ニ
關スル件 (同) 二〇八ノ二頁

昭和十九年官房第五三五號學徒勤勞員ノ給與ニ關ス
ル件 (同) 二〇八ノ三ノ二頁

昭和十九年官房第四七九號海軍ノ部隊ニ協力スル防衛
隊員ノ給與ニ關スル件 (同) 二〇八ノ三ノ五頁

昭和十九年官房第九〇三號海軍防衛召集規則ニ依リ召
集セラレタル者ノ給與ニ關スル件 (同) 二〇八ノ三ノ六頁

昭和十八年官房第五四四號療養ノ爲海軍病院ニ入院ヲ
命ゼラレタル軍人軍屬ノ俸給、加俸、手當、旅費等ノ支
給ニ關スル件 (同) 二二二頁

昭和十四年官房第一八四七號滿洲國ニ在勤スル軍人軍屬
ニ給スル加俸並ニ宿舍手當ニ關スル件 (同) 二二〇頁

1942

昭和十八年官房第一三六八號タイ、ビルマ又ハワイ
 ビン國在勤帝國大使館附武官附任文官ノ在勤加俸支給
 ニ關スル件 (同) 二二二頁

昭和十八年官房第二二八號朝鮮、臺灣等ニ在ル官衙部
 隊ニ勤務スル内地人タル囑託者ノ給與ニ關スル件 (同) 二二四頁

昭和十三年官房第三七九號當分ノ間佛國ニ駐在スル海
 軍軍人ノ在勤加俸支給ニ關スル件 (同) 二二二頁

昭和十五年官房第四一九三號標的艦擄津ノ航海加俸ニ關
 スル件 (同) 二二八ノ二頁

昭和十三年官房第六五九七號軍油輸送ノ艦船乗組者ノ支
 度手当支給ニ關スル件 (同) 二四二頁

昭和十八年官房第一一七八號海軍航空技術廠及海軍航
 空廠ニ勤務スル軍人軍屬及工員ニ給與スル航空糧食ニ關
 スル件 (同) 三二〇ノ四頁

昭和十九年官房第七二六號海軍航空技術廠又ハ最寄海
 軍航空廠ニ於ケル航空糧食支給ニ關スル件 (同) 三二〇ノ六頁

大正十一年官房第二二四號宗谷無線電信所ニ勤務スル
 軍人ノ食料ノ件 (同) 三二一頁

大正十一年官房第一三〇四號鑛業部ニ在勤スル者ニハ食
 料不給ノ件 (同) 三二一頁

昭和十四年官房第一八四九號滿洲國在勤大使館附武官ノ
 命ヲ承ケ勤務スル本邦人タル雇傭人ノ食料ノ件 (同) 三二一頁

大正元年遠第八號軍人軍屬宿直及其ノ他ノ場合ニ於ケル
 食料支給ノ件 (海軍會計法規類集二卷 三三四頁)

昭和十八年官房第一二三一號公務ニ從事中自ラ食事ヲ
 調辨スルコト能ハザル者ノ糧食給與ノ件 (同) 三二六頁

昭和十八年官房第一二三二號陸軍ノ准士官以上艦船部
 隊ニ於テ服務スルトキノ食料支給ニ關スル件 (同) 三二六頁

明治三十七年官房第一五一六號囑託者ノ報酬金前金拂ノ
 件 (同) 四〇五頁

大正十一年官房第一四五四號雇傭人ノ臨時増給支給ニ
 關スル件 (同) 四一五頁

昭和四年官房第三六二二號雇傭人等部内ニ於テ施行セ
 ル豫防注射ニ原因シテ發病シ引入又ハ休業ヲナセル時ノ
 給與ニ關スル件 (同) 四一五頁

航空加俸支給規則 (同) 四六三頁

昭和十四年官房第五八〇九號特ニ危險ナル航空試験ニ從
 事スルモノノ航空加俸支給ニ關スル件 (同) 四六八頁

昭和五年官房第一一七〇號航空術講習員參加員ニ航空加
 俸支給ノ件 (同) 四六八頁

昭和十三年官房第三八九四號特別教育ノ爲操縦又ハ機上
 作業ノ教導ヲ擔任スルトキノ航空加俸ニ關スル件 (同) 四六九頁

1943

昭和十五年官房第四七四號特別教育實施規程ニ依ル教育
擔任者ノ航空加俸支給ニ關スル件

(同) 四六九頁

昭和十八年官房第八號偵察教育ヲ主トスル掌電信兵タ
ル下士官ニ第二搭乗配置ニ在ルモノトシテ航空加俸支給
ノ件

(同) 四七〇頁

昭和二年官房第三二七三號傭人扶助令適用者死亡ノ場合
ニ於ケル給與ニ關スル件(同)

(同) 五二四頁

昭和六年官房第三八五五號航空訓練ノ爲乘組艦船ノ在泊
地外ニ在ル海軍部隊ニ起臥ヲ命セラレタル者ノ旅費ノ件

(同) 六五三頁

昭和十四年官房第四三七八號海軍各學校ノ生徒採用ノ爲
召喚セラレタル者ニ對スル滞在旅費ニ關スル件

(同) 六五五頁

昭和十八年官房第一二二二號海軍病院入院中歸郷療養
ヲ命セラレタル者ノ旅費ニ關スル件

(同) 六五五頁

昭和十七年官房第四七八九號簡閱點呼ニ參會ノ爲旅行ス
ル者ノ旅費ニ關スル件(同)

(同) 七三五頁

大正十一年官房第八八四號揚子江航行船賃等級ノ件
海軍兵歸省及家族出頭旅費規則

(同) 七五八ノ六頁

昭和六年官房第三〇一六號艦船所管變更ニ依リ勤務地ヲ
轉ズル場合ノ家族移轉料ノ件

(同) 七六一頁

昭和十五年官房第一六四五號工作船ニ轉傭シ命セラレタ
ル工員ノ家族移轉料ニ關スル件

(同) 六五〇頁

昭和十八年官房第七號講習、實習及見學旅費ニ關スル
件

(同) 六五〇頁

昭和二年官房第一〇八九號事務補助ノ爲海軍省等ニ出張
スル下士官、兵ニ旅費日當支給ノ件

(同) 六五三頁

海軍戰時給與規則施行細則(同)

(同) 七八四頁

昭和十六年官房第五八五五號海軍ノ勤務ニ從事スル傭託
者、雇員、傭人及工員ノ人事及給與ニ關スル件

(同) 八〇三頁

海軍兵補給與規則(同)

(同) 八〇六ノ二頁

在外海軍部隊艦船臨時給與令施行細則(同)

(同) 八〇八ノ三頁

昭和十四年官房第五九二七號充員召集ニ應召ノ爲旅行ス
ル者ニ對スル旅費支給ニ關スル件

(同) 八〇八ノ三八頁

昭和十六年官房第四四三二號退役准士官以上ノ者ニシテ
服役ノ爲出頭スル場合ノ旅費ノ件

(同) 八〇八ノ四四頁

浮屠給養規程(同)

(同) 八〇八ノ四七頁

所得稅徵收手續(同)

(同) 八〇九頁

昭和二十年官房第六一號海軍外地被徵用者給與補給規
則(昭和二十年二月四日秘海軍公報)

(同) 八〇九頁

昭和二十年官房第一四四號半島及本島出身ノ徵用工(鑛)

(同) 八〇九頁

員ニ作業帽等貸與ノ件 (同) 四月一日祕海軍公報
 昭和二十年官房經第一四八號工員ノ給料ハ毎月十五日ヲ
 以テ締切ノ件 (同) 四月二日祕海軍公報
 昭和二十年達第一五二號國民義勇隊給與規則
 (同) 七月五日祕海軍公報
 昭和十八年官房經第一二八八號公務旅行ノ下士官、兵ニ
 糧食給與ノ件 (海軍會計法規類集二卷 六五二ノ二頁)
 當分ノ開外地ニ派遣セララル艦船乗員ニハ外地ニ向ケ内地最終
 港灣出港ノ日ヨリ初メテ内地港灣到着ノ日迄ノ期間ニ付海軍戰
 時特例給與規則(第十條乃至第十條ノ三、第十一條及第十三條
 ノ規定ヲ除ク)ヲ適用ス
 本達適用ノ際現ニ外地ニ在ル軍人軍屬ニハ當分ノ開海軍戰時特
 例給與規則(第十條乃至第十條ノ三、第十一條及第十三條ノ規
 定ヲ除ク)ヲ適用ス
 前二項ノ規定ニ該當スル者ニハ第二復員部内戰時勤勉手当支給
 規則ハ之ヲ適用セズ
 本達適用ノ際現ニ外地ニ在ル應徵船員ニハ仍海軍應徵船員給與
 規則第十四條、第二十九條、第三十四條乃至第三十八條及第四
 十三條ノ規定ヲ適用ス
 本達適用ノ際現ニ外地ニ在ル雇員傭人及公務員ニ非ザル囑託者
 ニハ仍大東亞戰爭雇員傭人扶助金支給規則第二條ヲ除キ同則ニ
 依リ扶助金ヲ支給スルコトヲ得

第一表ノイ 航海加俸

區分	航海加俸	
	月額	日額
區分	海軍給與令第五表第二欄	海軍給與令第五表第二欄
高、等官一等	三九〇	三九〇
同 二等	三四〇	三四〇
同 三等	三一〇	三一〇
同 四等	二二〇	二二〇
同 五等	一八〇	一八〇
同 六等	一七〇	一七〇
同 七等	一三五	一三五
同 八等	一三五	一三五
判任官	一〇五	一〇五

第二表 居殘食料

區分	月額
雇員及傭人	給料ノ十分ノ三但シ月額二十四ニ滿タザルトキハ月額二十四

1945

考	備	區分	
		甲	乙
三	<p>一日額ノ支給區分左ノ如シ</p> <p>甲額</p> <p>(イ) 居残服務午後六時以時差出勤等ニ依リ大正十一年開令第六號ニ依ル執務開始時刻ヨリ三十分以上繰上テ執務ヲ開始スル應ニ在リテハ執務五時三十分以下之ニ同ジ) 以後ニ及ブトキ</p> <p>(ロ) 公暇日出勤ヲ命ゼラレ執務四時間以上ニ及ブトキ</p> <p>乙額</p> <p>(イ) 居残服務翌朝ニ及ブトキ</p> <p>(ロ) 宿直勤務ヲ命ゼラレ翌朝ニ及ブトキ</p> <p>(ハ) 夜間勤務ヲ命ゼラレ午後七時以前出勤シ翌朝午前六時以後ニ及ブトキ</p> <p>二 本表ノ食料ハ糧食及他ノ規定ニ依リ食料又ハ旅費(交通費ノミヲ支給スル場合ヲ除ク)ノ支給ヲ受クル者ニハ之ヲ支給セズ</p> <p>三 本表ノ食料ハ無報酬囑託者ニハ之ヲ支給セズ</p>	<p>高等文官同待遇者及部内限高等官待遇者及判任文官同待遇者及部内限判任官待遇者</p> <p>一 四二〇錢</p> <p>一 四八〇錢</p> <p>一 四五〇錢</p> <p>一 四二〇錢</p>	<p>日額</p> <p>甲額</p> <p>乙額</p>

區分	金額
高等官二等以上	一〇五〇
高等官五等以上報酬月額二百七十圓以上ノ奏任待遇囑託者	八二五〇
高等官六等以下報酬月額二百七十圓未滿ノ奏任待遇囑託者	六七五〇
判任官一等、報酬月額百五十圓以上ノ判任待遇囑託者	五二五〇
判任官二、三、四等同待遇者報酬月額百五十圓未滿ノ判任待遇囑託者	四五〇〇
雇員及備人	三七五〇

官房總第三〇號
 就農指導班規程左ノ通定ム
 昭和二十年十二月二十日

第二復員大臣

就農指導班規程

第一條 第二復員省人事局ニ就農指導班ヲ置ク

第二條 就農指導班ハ第二復員省人事局扶助課ト密接ナル連絡ヲ保テ終戦後ニ於ケル海軍復員者ノ就農ニ關スル計畫、指導、連絡、轉旋及調査ニ關スル事務ヲ分掌ス(就農轉旋ニ付テハ特ニ扶助課ヲ援助スルモノトス)

第三條 就農指導班ニ班長及班員ヲ置ク

第二復員省公報 第一五號 昭和二十年十二月二十八日

五五

1946

第四條 班長ハ第二復員省出仕一人ヲ以テ之ニ充テ班員ハ第二

復員省人事局局員ノ中ヨリ同局長之ヲ命ズ

第五條 班長ハ第二復員省人事局長ノ命ヲ承ケ班務ヲ掌理ス

第六條 班員ハ班長ノ命ヲ承ケ服務ス

第七條 班員タルベキ人員左ノ如シ

第二復員省人事局局員四人(内三人以内第二復員大臣官房需
品部部員ノ兼務)

右以外五人以内ノ囑託ヲ置クコトヲ得

○雜款

○移轉

當部補充課(舊吳復員收容部補充課)ハ十二月六日廣島縣佐伯
郡大竹町舊海軍潜水學校内ニ移轉セリ

(吳地方復員局運航部)

○事務開始

名古屋地方復員人事部岐阜支部ヲ十二月十八日岐阜市矢島町一
丁目(本誓寺内)ニ設置シ事務ヲ開始セリ

(名古屋地方復員人事部)

○取消

左記ノ者ハ十二月二十二日官房人第五〇九號ニ依ル召集ヲ取消
サレタリ

記

海軍軍醫少佐 安間孝正(四四)
同 水谷敏男(七三)
海軍軍醫大尉 時政希典(二九四)
海軍軍醫中尉 藤田博(二九四)
海軍軍醫少尉 荒川七郎(三三四)
海軍藥劑大尉 鳥居國司(二〇三)

○失官

海軍中尉 (ヨ七七三)ハ窃盜横領罪ニ因リ懲役一年六月
ニ處スルノ裁判確定シ昭和二十年十一月六日失官ト爲レリ

海軍中尉 (ヨ七七〇)ハ業務上横領罪ニ因リ懲役一年
六月ニ處スルノ裁判確定シ昭和二十年十一月六日失官ト爲レリ

海軍中尉 (ヨ七六七)ハ業務上横領罪ニ因リ懲役二年ニ
處スルノ裁判確定シ昭和二十年十一月九日失官ト爲レリ

海軍少尉 (ヨ三六六)ハ業務上横領罪ニ因リ懲役二年
ニ處スルノ裁判確定シ昭和二十年十一月九日失官ト爲レリ

海軍少尉 (ヨ三七五)ハ業務上横領罪ニ因リ懲役二年
ニ處スルノ裁判確定シ昭和二十年十一月九日失官ト爲レリ

海軍少尉 (ヨ三七五)ハ業務上横領罪ニ因リ懲役二年
ニ處スルノ裁判確定シ昭和二十年十一月九日失官ト爲レリ

1947

第二復員省公報 第一六號

昭和二十年十二月二十九日(土)
第二復員大臣官房

○通 牒

二復經主第七號ノ九

昭和二十年十二月二十六日

第二復員省經理局長

關係各廳長殿

第二復員省關係勤務員ノ給與等ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ左ノ通發電セラレタルニ付了知相成度

發 人事局長、經理局長

宛 部内一般

第〇四一九〇五番電

退職賞與ノ支給停止ニ關スル件

聯合軍側ノ指令ニ基キ軍人ノ解員ニ伴フ退職賞與ハ現金タルト
定期預金證書タルトヲ問ハズ支給ヲ停止セラル
既キ支給シタル退職賞與ニ付テハ別途指示セララル豫定

發 經理局長

宛 關係各廳長

第〇六一〇二六番電

分類所得稅等ノ取扱ニ關スル件

第二復員部内職員ニ對スル分類所得稅及國庫納金ノ取扱ニ關スル
依ル

一 分類所得稅

(イ) 外地ニ在ル軍人軍屬及艦船乘員(陸上ニ在ル豫備員ヲ含ム)ハ所得稅法第十一條第一號ノ從軍中ノ者ト看做シ分類所得稅ハ課セラレズ

(ロ) 前號以外ノ者ノ分類所得稅ハ當分ノ間大東亞戰爭海軍所得稅徵收手續特例ニ依リ徵收スルモノトス

二 國庫納金

(イ) 外地ニ在ル軍人軍屬並ニ艦船乘員ノ内地港域外ニ在ル月ハ國庫納金ヲ控除セズ

(ロ) 前號以外ノ者ノ國庫納金ハ當分ノ間大東亞戰爭海軍國庫納金納付手續特例ニ依リ控除スルモノトス

發 經理局長

宛 部内一般

第〇八一五〇五番電

外地ニ在ル軍人軍屬ノ給與ノ件

一 外地ニ在ル軍人軍屬ニハ當分ノ間海軍戰時特例給與規則其ノ他戰時給與ニ關スル法規ヲ適用セラル但シ派遣手當及服裝手當ハ之ヲ支給セズ

第二復員省公報 第一六號 昭和二十年十二月二十九日

五七

1948

二 艦船乗員ニシテ外地ニ派遣セララルモノニハ當分ノ開外地ニ向ケ内地ヲ離レタル日ヨリ最初ニ内地ニ歸着ノ日迄ノ期間前號ニ準ズ

發 大 臣

宛 部内一般

第一〇一七三〇番電

解員又ハ整理ニ伴フ給與ノ件

解員又ハ整理ニ伴フ給與中左ノ通改正シ本年十二月十五日ヨリ施行ス

一 昭和二十年機密第二二二三二〇番電海軍軍人ノ解員ニ伴フ給與等ニ關スル件中左ノ通改ム

一 俸給等

俸給、戰時増俸、勤続手當、臨時家族手當及特別賞與ニ付解員ノ日ノ屬スル月ノ末日迄ノ分ヲ支給ス

二 昭和二十年機密第二二二二五番電海軍ノ各部ニ勤務スル解員、傭人、工員等ノ整理ニ伴フ給與等ノ件中左ノ通改ム

一 給料等
解員及傭人ハ給料、戰時増俸、勤続手當、臨時家族手當及特別賞與、工員ノ給料、増給及臨時家族手當ニ付整理ノ日ノ屬スル月ノ末日迄ノ分ヲ支給ス

發 大 臣
宛 部内一般

第一〇一三二〇番電

海軍ノ各部ニ勤務スル解員、傭人、工員等ノ整理ニ伴フ給與等ニ關スル件外一件中改正ノ件

本年機密第二二二二五番電海軍ノ各部ニ勤務スル解員、傭人、工員等ノ整理ニ伴フ給與等ニ關スル件（九月六日公報参照）及本年機密第三〇一八三番電海軍文官及囑託者ノ退職ニ伴フ給與等ニ關スル件（九月十五日公報参照）中夫々第二號（退職賞與）ヲ削リ昭和二十年十一月二十四日以後之ヲ適用ス

發 經理局長

宛 關係各廳長

第一〇一三二一〇番電

獎勵加給ニ關スル件

第二復員部内ニ勤務スル工員ノ獎勵加給ノ平均率ハ本月十六日以降二割三分以内トス

發 人事局扶助課長、經理局主計課長

宛 各地方復員局經理部長

第一〇七一六三八番電

退職賞與支給停止ニ伴ヒ退職手當等支給停止ノ件

解員又ハ整理ニ伴フ軍人軍屬ニハ退職賞與ヲ支給セラレザルコトトナリタル處海軍退職賞與内規ニ依ル退職賞與及海軍工員規

1949

則又ハ海軍戰時工員規則ニ依ル退職手當モ當然支給セラレザルモノナルニ付了知アリ度

發 經理局長

宛 關係各廳長

第一〇一三〇番電

工(鑛)員ノ臨時昇級ニ關スル件

海軍各廳ノ工(鑛)員ニシテ十二月一日附内地所在第二復員部内各廳ノ工(鑛)員ト爲リタルモノニハ十二月十六日附三十錢以内臨時昇級セシムルコトニ取計ハレ度

發 大臣

宛 部内一般

第一二一七五〇番電

工員戰時特例給與規則中改正ノ件

海軍工員戰時特例給與規則中第二十一條、第二十二條ノ二、第三十條及第三十三條第二項ヲ削リ昭和二十年十二月一日ヨリ適用ス

發 經理局長

宛 部内一般(内地ノミ)

第一四一三四五番電

年末賞與追加支給ノ際ノ處理ニ關スル件

十二月十五日在籍者(内地所在各廳ニ在ル工員ハ十二月十六日

在籍者)ニ對シ年末賞與ノ追加支給發令セラレタル處之ガ支給ニ際シテハ左記ニ依ラレ度

記

- 一 本賞與支給ノ際第二復員部内職員ニ對シ解員又ハ整理ニ伴ヒ支給セラレタル十二月分及一月分ノ俸給、給料及報酬ハ之ヲ戻入スルモノトス
- 二 外地ヨリ歸還シ十二月十五日以後整理セララルル工員ニ對スル本賞與ノ支給日ハ十二月十五日ナリ
- 三 本賞與ノ支給ヲ受クル外地歸還軍人軍屬ニ對スル解員又ハ整理ニ伴フ俸給等諸給與ハ解員又ハ整理ノ月ノ末日迄ノ分ヲ支給スルモノトシ解員又ハ整理ノ月ヲ含ミ三月分以内ノ前金拂ヲ爲サザルモノトス

○ 雜 款

舞鶴地方復員局法令第八號

昭和二十年十二月二十四日

舞鶴地方復員局長官 鳥越新一

舞鶴東京間傳書使派遣規程左ノ通定ム

舞鶴東京間傳書使派遣規程

- 第一條 舞鶴所在各廳ト東京及横須賀所在各廳間ニ於ケル文書ノ迅速確達ヲ期スル爲舞鶴地方復員局ヨリ傳書使ヲ派遣ス
- 第二條 舞鶴所在各廳ト東京及横須賀所在各廳間ヲ往復スル文

書中重要ナルモノハ本傳書使ニテ送達交換セシムルモノトス
 第三條 傳書使派遣ヲ一週一回トシ發着時刻ヲ左ノ通定メ舞鶴
 東京間ヲ往復セシム

東	舞	鶴	驛	東	京	驛
(火)	一〇四三發	↓(水)	〇六四〇著	(木)	〇八〇九著	↑(水) 一五二五發
備考 列車時刻ニ依リ變更スルコトアリ						

第四條 舞鶴所在各驛ヨリ東京、横須賀所在各驛宛ノ文書ハ出
 發前日中ニ總務部文書交換所(一六〇〇)以後ハ宿直復員官
 ニ持參スルモノトス
 第五條 包装容積及重量ハ總テ郵送ノ場合ト同程度ト爲シ必ズ
 宛先毎ニ包装スルモノトス
 第六條 文書ノ送達交換ハ第二復員省及總務部各文書交換所ニ
 於テ行ヒ授受ノ認印ヲ行ハズ但シ重要文書ノ差出ニハ送付票
 (受領票添付) 様式第一ヲ貼付スルモノトス
 第七條 本派遣規程ニ依ル傳書使ニハ常ニ左ノ證明書ヲ持參セ
 シム

證明書
 本人ハ舞鶴—東京間緊急公用使ナルコトヲ
 證明ス
 舞鶴地方復員局 印

様式第一

送 付 票			受 領 票		
送 出 人	受 取 人	摘 録	送 出 人	受 取 人	摘 録
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
復員省取 扱者印	復員局取 扱者印	印者受接	受領者印		

(備考) 用紙大キサハ雜用紙四ツ切トス

○郵便物發送先
 敷設艇神島宛郵便物ハ爾今山口縣仙崎局氣付ニテ發送相成度
 (敷 設 艇 神 島)

1951

第二復員省公報 第一七號

昭和二十年十二月三十一日(月)
第二復員大臣官房

○ 令 達

達第一七號

現ニ左ノ上欄ニ掲グル海軍武官タル第二復員官ノ俸給ハ別ニ附令ヲ用ヒズシテ當該下欄ノ級俸トス

昭和二十年十二月一日

第二復員大臣

佐タル第二復員官	五級俸
特務士官ノ大尉タル第二復員官	六級俸
大尉及特務士官ノ中尉タル第二復員官	七級俸
特務士官ノ少尉タル第二復員官	八級俸
中尉 (特務士官タル者ヲ除ク)	九級俸
少尉 (特務士官タル者ヲ除ク)	十級俸

達第一八號

第二復員部内臨時物價手當支給規則左ノ通定ム

昭和二十年十二月二十八日

第二復員大臣

第二復員省公報 第一七號

昭和二十年十二月三十一日

第二復員部内臨時物價手當支給規則

第一條 文官同待遇者、囑託者、雇員、傭人及工員ニハ本規則ニ依リ臨時物價手當ヲ支給ス但シ左ノ各條ノ一ヲ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 俸給若ハ給料(報酬ヲ含ム以下ニテ同ジ)ヲ受ケテ居ル者又ハ第二復員部内ノ勤務ヲ本務トセザル者

二 休職(應召ノ爲メニ休職ヲ除ク以下ニテ同ジ)中ノ者

三 外地又ハ外國ニ在ル者

第二條 前條ノ手當ハ俸給又ハ給料(自給者ニ付テハ其ノ三十分ノ月額トス)ノ十分ノ六ニ相當スル額ヲ月額トス但シ其ノ月額百圓ヲ超ユルトキハ百圓トシ五十圓ニ滿タザルトキハ五十圓トス

召集ニ因リ俸給ノ差額ノ支給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ受クル俸給ノ差額ヲ基準トシテ前項ノ規定ヲ適用ス但シ前項但書中百圓又ハ五十圓トアルハ百圓又ハ五十圓ニ其ノ差額ノ俸給ニ對スル割合ヲ乘ジテ得タル額トス

第三條 手當ハ俸給又ハ給料ノ支給定日ニ其ノ月分ヲ支給ス但シ轉勤、轉雇、轉備、退職、死亡等ノ場合ハ其ノ月分ノ全額(第一條第一號又ハ第二號ニ該當スルニ至リタル場合ヲ含ム)ヲ支給ス

1952

第四條 手當ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ支給セズ

一 俸給又ハ給料ノ支給ヲ爲サザル月

二 休職ノトキハ其ノ翌月ヨリ復職ノ前月迄

三 留置、勾留、處刑又ハ被告事件ノ爲護送ノトキハ其ノ月ヨリ取消又ハ釋放ノ前日ノ屬スル月迄

第五條 本則ニ定ムルモノヲ除クノ外手當ノ支給ニ關シテハ俸給又ハ給料支給ノ例ニ依ル

附則

本達ハ昭和二十年十二月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ昭和二十年十二月分ノ手當ノ額ハ本則ニ依リ算出シタル金額ヨリ戰時勤勉手當ニ相當スル金額ヲ控除スルモノトス

第二復員部内戰時勤勉手當支給規則ハ之ヲ廢止ス

外地ニ派遣セラレタル艦船乗員ノ海軍戰時特例給與規則ノ適用ニ依リ受クベキ戰時増俸ノ額本則ニ依リ算出シタル手當ノ額ヨリ少キトキハ第一條第三號ノ規定ニ拘ラズ本則ニ依リ手當ヲ支給シ戰時増俸ヲ支給セズ

第二復員部内俸給家族下渡規則中左ノ通改正ス

第十八條及第十九條中「臨時家族手當」ノ下ニ「臨時物價手當」ヲ加フ

内令第一七號

佐世保地方復員局所管

特別輸送艦生

野

右横須賀地方復員局所管ト改ム
昭和二十年十二月二十五日
第二復員大臣

○通牒

官房總第三九號
昭和二十年十二月二十二日
第二復員大臣

各地方復員局長官殿
地方復員人事ノ事務處理ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ緊迫セル交通通信ノ現狀ニ鑑ミ軍人及軍屬ノ身上取扱ニ關スル事務中兩地方復員局ニ密接ナル關係ヲ有スルモノニ付テハ當該兩地方復員局長官相互協議ノ上要スレバ必要ナル取極ヲ行ヒ事務能率ヲ發揮スル如ク取計相成度

○雜款

○假稱
十二月一日ヨリ第二十一海軍航空廠殘務整理委員事務所ヲ左ノ如ク假稱ス
第二復員省佐世保復員局大村支部
(第二十一海軍航空廠殘務整理班長)

1953